

福岡城祈念櫓（きねんやぐら）石垣の修復工事について（1）

I 石垣修復工事の目的

慶長 6（1601）年の福岡城築城開始以来 400 年以上が経過し、祈念櫓が建っていた石垣には、経年による変化が見られるようになりました。そこで、公園内の安全確保や文化財の保存・継承を目的として、石垣を解体して積み直しを行うことになりました。

II 石垣修復工事の方法

- ① 櫓を解体した後、発掘調査を行いました。その結果、櫓の基礎となる礎石（そせき）が見つかりました。（写真 1）
- ② 石垣は解体した後、基本的に元の場所に積み直すため、あらかじめ解体する石に番号を付けていきます。（写真 3）
- ③ 1 段ごとに石を外しながら、写真撮影や記録作成を行います。
解体は石垣の中にある裏込石（うらごめいし：石を安定させるために背面に詰める石）と盛土を手作業で除去し、下の段の石を出していきます。石を外す際にはクレーンで吊り上げます。（写真 6・7・8）
- ④ 石垣の解体作業は一番下の段までこの一連の作業を繰り返して行います。
- ⑤ 解体終了後は、石垣を積み直すため構造の検討を行い、それに基づいて解体した石を元通りに積み直していきます。

III 現在の作業

現在は全体の高さの 1/3 程度の石垣を解体しています。引き続き安全に留意しながら、慎重に解体作業を続けていきます。

祈念櫓の概要

祈念櫓は福岡城本丸の東北隅に位置し、鬼門封じの祈祷を行うために建立されました。福岡城は明治以来軍隊が使用していましたが、大正 7（1918）年福岡市博多区の崇福寺（そうふくじ）が黒田家の菩提寺である縁故により祈念櫓の払い下げを受けました。その後、櫓は崇福寺にゆかりのある北九州市八幡東区の大正寺に移築され、観音堂として使用されてきました。

昭和 32 年に「旧福岡城祈念櫓」として福岡県の有形文化財（建造物）に指定された後、昭和 58～59 年度にかけて福岡城跡に移築復元されました。

石垣解体の前に…祈念櫓の解体

石垣の解体に先立ち、石垣の上に建っていた祈念櫓の解体工事を令和元年 5 月～9 月に行いました。手作業で丁寧に解体された櫓の部材は、倉庫で保管しています。



解体前の祈念櫓と石垣

石垣の解体作業



1. 事前の発掘調査



2. 石垣の洗浄



3. 石に番号を付ける



4. 解体前の丁張りの設置
(石垣の傾斜角度の確認)



5. 作業用の足場の設置



6. 背面の裏込石、盛土の除去



7. 写真測量による記録作成



8. 石をクレーンで上げる